

令和4年度 江戸川区立第七葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                            |                                                                             |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 学校教育目標            | 児童一人一人に真の「生き抜く力」を育む教育を目指し、「学力向上」「豊かな道德心」「体力の向上」を焦点化し、次の4つを設定する。<br>・考える子 ◎思いやりのある子(重点目標)・じょうぶな子・やり抜く子                                                                                                                                                                         | 目指す学校像<br>目指す児童像<br>目指す教師像 | ○3つの「がい(学びがい・働きがい・通わせがい)」のある学校<br>○礼儀・責任・感謝の気持ちをもつ児童<br>○プロ意識をもち、指導力向上に励む教師 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | <成果> 児童の表現力の向上を図るために校内研究教科を外国語に定め、授業力の向上を進めることができた。3年間の研究を見通し、その初年度として授業の基礎固めを進め、全学級で外国語の授業の質向上を目指し取り組んだ。主幹教諭を中心に、主任教諭が各分掌のリーダーとなり、生活指導面、不登校対応、特別支援教育の組織的対応を進めることができた。同時に、組織を活用し、日々の職務遂行の中で若手の育成を推進することができた。<br><課題> 日々の授業を通して、児童のコミュニケーション能力や表現力の向上を実現するため、教員一人一人の授業力向上をめざす。 |                            |                                                                             |

| 教育委員会重点課題           | 取組項目             | 評価の視点                                                                  | 具体的な取組                                                                                                                       | 数値目標                                                                                                                                      | 自己評価 |    |                                                                                                                                                                       | 学校関係者評価 |                                                                                                                               | 来年度に向けた改善策                                                              |
|---------------------|------------------|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
|                     |                  |                                                                        |                                                                                                                              |                                                                                                                                           | 取組   | 成果 | 成果と課題                                                                                                                                                                 | 評価      | コメント                                                                                                                          |                                                                         |
| いきいきと学ぶ学校づくり        | 確かな学力の向上         | ・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実                                  | ・年間を通して朝学習(読書、算数、外国語)を実施。<br><br>・年3回、東京ベーシックドリルの診断シートを実施。<br>・前年度の学力テストを2～6年生で実施。<br><br>・放課後補習教室を2～6年生で、下記補習教室を全学年で実施。     | ・朝学習(読書、算数、外国語)の合計実施回数を100回以上確保する。<br><br>・東京ベーシックドリルの診断シートにおいて、平均正答率を2%向上させる。<br><br>・放課後補習教室を5月より開始し、年間150回の実施回数を確保する。                  | A    | A  | ・朝学習(読書、算数、外国語)について、毎週3回、年間120回の実施を達成。<br>・放課後補習教室は、5月から開始し、毎日実施。150回の実施を達成。<br>・全国学力調査の結果において、国語、算数、理科ともに、全国平均比で約10ポイント、都平均比で約5ポイント上回る結果であった。                        | A       | ・全国学力調査の結果から、全国や都の平均と比べると本校はかなり上位の結果となっているのがわかる。日頃の先生方の取り組みの賜物であると感じる。<br><br>・放課後補習教室や夏季休業中の補習などの実施により、基礎学力の底上げがなされたのではないかな。 | ・次年度の東京ベーシックドリル診断シートや都や全国の学力調査で、この一年間の本当の成果が問われることになるので、次年度の分析をしっかりと行う。 |
|                     | 体力の向上            | ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実                                                 | ・全校運動遊びの実施。<br><br>・年間2回、なわとび大会を実施。短なわとびにおいては、個人目標を設定。長なわ跳びでは各学級ごとに目標を設定。<br><br>・12月と1月に持久走週間を実施。                           | ・6月実施の体力テストにおいて、平均値を都平均と同水準にする。<br><br>・長なわ大会において、60%以上の学級で目標達成を実現させる。<br><br>・学校関係者評価の体力向上に向けた取組の項目において、85%以上の肯定的評価を得る。                  | A    | B  | ・体力テストにおいて、全体としては概ね東京都平均値を上回った。昨年度課題としていた跳躍力と投力に改善が見られたが、持久力については課題が残る。握力について、来年度の課題である。<br>・12月実施の縄跳び大会では、70%以上の学級で目標を達成することができた。<br>・学校関係者評価で、体力向上の肯定的評価が95%以上であった。 | B       | ・運動会の時の、児童の活躍が印象的であった。どの児童も、元気に校庭を駆け回る姿が素晴らしかった。<br><br>・縄跳び大会やマラソン週間などで、元気いっぱい児童が校庭で活動する姿に、いつもエネルギーをもらえる。                    | ・体力テストの分析から浮き彫りとなった課題(持久力と握力)の改善に向け、全校運動遊びや日々の体育の授業の計画を見直し、実施する。        |
|                     | 読書科の更なる充実        | ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実                                                    | ・図書館司書や図書ボランティアと連携し、年間を通して図書室の環境整備を進めるとともに、定期的に各学級での読み聞かせ会を実施。<br><br>・各学年で、国語や総合的な学習の時間において、読書を通じた探究的な学習を行い、読書科との横断的な学習を実施。 | ・絵本の読み聞かせ会 年間4回<br>・お話し会の実施 年間1回<br>・ブックトーク 年間3回<br><br>・探究的な学習活動を年間35時間実施。<br>・夏の調べる学習コンクールに30名以上の応募を実現。                                 | A    | A  | ・探究的な学習活動を全学年が年間35時間以上実施することができた。<br><br>・調べる学習コンクールに4つの学年の全児童の応募を実現し、目標値を大きく超えて達成。                                                                                   | A       | ・調べる学習コンクールへの応募が劇的に増加したことは、先生方の働きかけがあったからこそである。<br>今後も、読書好きの児童を増やし、本を使って調べ物をする児童を増やしたい。                                       | ・読書月間の取り組みを充実させ、学校図書館や西葛西図書館の本を使って調べる機会を増やし、探究的な学習の充実を図る。               |
| 特別支援教育の推進           | 共生社会の実現に向けた教育の推進 | ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実<br>・エンカレッジルームの活用促進<br>・副籍交流、交流及び共同学習の充実 | ・校内委員会の開催…定例を月一回。必要な時にはその都度実施。<br><br>・エンカレッジ担当教員のシフト化を進める。<br><br>・都立鹿本学園との副籍交流を実施。                                         | ・年間の校内委員会の年間10回以上実施。<br><br>・曜日ごとにエンカレッジ担当を割振り、全教員がエンカレッジルームを利用する児童に関わる。<br><br>・鹿本学園と毎月文書交流をする。状況に応じて学習の交流を年3回実施。                        | A    | B  | ・校内委員会を毎月実施し、年間10回実施を達成。<br>・エンカレッジ担当を4月に割振り、年間を通して全教員で児童の対応に当たった。<br><br>・鹿本学園との交流について、コロナの状況を見ながら交流の機会を設け、年間2回実施。                                                   | B       | ・特別な支援を必要とする児童が、年々増加しているように感じる。それに伴い、特別支援教育の需要が高まっている。<br><br>・様々な特性をもつ児童との触れ合いを増やすことで、児童の思いやりの心が耕されていると感じる。                  | ・定例の校内委員会を継続し、特別支援に関する家庭の理解を深めるために、今後も情報を発信していく。                        |
|                     | 子供たちの健全育成        | ・子供たちの健全育成に向けた取組                                                       | ・いじめ防止研修会の実施。<br><br>・「Hyper-Qu」の実施とその後の研修会で情報共有を図る。<br>・道徳授業におけるいじめ防止授業の実施といじめ防止アンケートの実施。                                   | ・いじめ防止研修会を年間3回実施。<br><br>・7月に「Hyper-Qu」を実施し、8月に校内研修会を開く。<br>・道徳授業におけるいじめ防止の授業、いじめ防止アンケートを、ともに年間3回実施。                                      | A    | B  | ・いじめ防止研修会を年間3回実施を達成。<br>・「Hyper-Qu」を7月に実施。結果分析を9月の研修会で全教員で行った。<br>・いじめ防止アンケート、道徳での授業を1回ずつ実施。                                                                          | B       | ・児童にとって、担任の先生方が話しかけやすい存在であり、困ったことがあればすぐに相談できる環境にあると感じる。<br>Hyper-Qu実施後の研修など、職員全体で、様々研修を実施していることが、その背景になっているように感じる。            | ・組織内の連携強化をさらに進め、いじめの早期発見、早期対応に努める。                                      |
| 学校と家庭、地域、関係機関との連携強化 | 学校関係者評価の充実       | 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善                                            | ・コロナ禍における学校行事において、PTAとの連携強化を図り、行事の新しい在り方を実現させる。<br><br>・PTA行事、地域行事への積極的参加。                                                   | ・運動会や展覧会など、大きな行事において入場人数に制限をかけざるを得なくなった際、PTAと協力し、動画配信を実現させる。<br><br>・5月に新田フェスティバル、7月にPTAおやじの会主催のサマーキャンプ、10月にPTAともだち祭り、1月にニューイヤーマラソン大会に参加。 | A    | B  | ・運動会の参観を、各家庭1名の制限を設けると同時に、PTAの協力のもと、各家庭への動画配信を実現させることができた。<br><br>・10月のPTAともだち祭りにおいて、職員ブースを設け、PTAとの連携を深めることができた。                                                      | A       | ・運動会は、3年ぶりに参観することができた。また、展覧会も、児童一人一人の個性が活かされており、大変素晴らしかった。<br><br>・PTAともだち祭りも、午前開催や飲食の出店を自粛し、感染症対策を講じて開催することができてよかった。         | ・地域との連携をさらに深め、授業での体験学習に地域人材を活用する。                                       |
| 特色ある教育の展開           | 「学校における働き方改革プラン」 | 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施                                              | ・月4回の定時退勤日(チャレンジ・ウェンズデイ)の設定。<br><br>・年間を通して、会議における校務処理システムの活用。                                                               | ・毎月の勤務時間において、外在校時間45時間以上の教員を2名以内ににする。<br><br>・毎回の会議にかかる時間を1時間以内にする。                                                                       | B    | C  | ・毎月、勤務時間外在校時間45時間を超える教員が3名程度おり、今後改善していくことが課題である。<br>・会議の時間を1時間以内とする点においては、おおむね達成。                                                                                     | B       | ・先生方の多忙化は、年々進んでいるのではないかな。 いつも先生方が元気でいられることが、児童の健全な成長に直結するので、日々の負担を減らす努力を継続すべきである。                                             | ・行事や会議を見直し、システム面の改善を進めるとともに、職場全体の意識を改善させ、勤務時間外在校時間月45時間を超える教員を0にしていこう。  |